
俺とFクラスと非日常！？

青龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺とFクラスと非日常！？

【Nコード】

N3267Y

【作者名】

青龍

【あらすじ】

東雲 澪が転入した文月学園！

男？女？な澪とFクラスの非日常をどうぞ！！

登場人物紹介！（前書き）

二つ目の連載小説です！
よろしく願います！

登場人物紹介！

名前 しのめ 東雲 みお 澪

性別 女

年齢 17歳

身長 160cm

体重 誰が教えるか！

容姿 漆黒の美波より少し長いポニーテール
瞳も髪と同じ漆黒
制服は、女子のスカートが嫌いなため、男子の制服

一人称 俺

二人称 君、貴方、お前

三人称 君達、お前ら（達）

性格 とりあえずポジティブ
ブチギレると、静かに怒るので怖い
男子の言葉遣いと、仕草
口癖は「ってことで」

得意教科 なし

苦手教科 なし

召喚獣 澪をデフォルメした姿

漆黒の衣装を身に纏い、赤いマントをつけている

武器は日本刀の二刀流

二本を合体させることで1つの大きな剣となる

総合はAクラスのトップ並み

本人はあまり好んではないが、女子にモテる

女子と男子の扱いがまったく違う

秀吉と美波、瑞希、優子、翔子、愛子と知り合い

東雲 友也の双子の妹

あだ名は……本編で!!

名前 しのめ 東雲 ともや 友也

性別 男

年齢 17歳

身長 170cm

体重 さあ？ 忘れた（笑）

一人称 俺

二人称 君、お前

三人称 君達、お前ら（達）

趣味 本編で明らかに！

容姿 漆黒の髪と瞳

左耳に銀色のピアス

目が悪いが、コンタクト

性格 ポジティブ&シスコン

漑と同じで女子と男子の扱いに差がある

普通にモテる

口癖は「ったく」

召喚獣 友也をデフォルメした姿に

漆黒の衣装 武器は片手剣

得意教科 世界史 (700ぐらい)

苦手教科 英語 (フタケタ)

Aクラスに所属 漑より成績はした

漑の双子の兄

ブログ

ああ・・・疲れそうだな・・・学園生活
っていうか、なんで俺はFクラスなんだ？
兄貴よりは成績いいはずだけど・・・
うーん？

ま、気にしないようにすつか

「おそいぞ！東雲！」

「へーい！」

この鉄人！・・・いや
西村先生・・・今なぜか手を思いつきり握ってたから
結構怖かった・・・

って言うてる間にも、Fクラスの前にたどり着こうとしている
ほー、これがAクラスか・・・

いいなあ兄貴！！！！

まあ、兄貴とクラスが離れてよかったけどな！

ん？え”・・・Fクラスってここか？？

廃屋か！？倉庫か！？

こんなところで勉強できるわけがないよな・・・
まあいいや、勉強する気ねえし（笑）

「ちよつとまってる」

そういつて鉄人はFクラス（？）に入ってた
確か鉄人言ってたな？

Fクラスはバカの集まりだって・・・

まあ、成績で振り分けられるみたいだし
それだけ成績の悪い奴らがいるんだよな
ここに女子はいなさそうだな
知り合いがいればいいけど・・・
いないよな
それだけバカなやつって聞いたことねえし
ここのテスト簡単だし・・・

プロローグ（後書き）

ふう、書きやすい・・・

なぜだろう??

私に似てるからか??

って感じで書いてました!

これからもしろしくお願いします!

第一問 よろしくな！

「今日は転入生がいる！」

「「「「「「「「「女子ですか！？」「」「」「」「」「」

「・・・うーん・・・まあ・・・女子だな」

「「「「「「「「「は？」「」「」「」「」「」

ちよつと待て鉄人
今の間は何だつて！！！！

「入れ」

ちえ

ガラッ！

「はじめまして！東雲 漣といいます！
これからよろしくな！」

「「「王子！？」「」

「あ”・・・秀吉、美波、瑞希・・・」

何でこの3人が・・・
しかも同じクラス・・・
ハハッ・・・

「好きな席に座れ」

「へーい」

.....

「これでH Rを終わる」

鉄人が教室から出て行くと、俺の近くに茶髪の男子が話しかけてきた
バカに相應しい顔だな

「ねえ、東雲さん、僕は吉井明久っていうんだ！よろしくね！」

「よろしく！俺のことは遷でいいから！」

「俺？」

「小学校のときからの癖だ」

「そっか！」

満面の笑みで俺を見ていた
そしたら瑞希たちが俺の近くに来た

「王子！」

「ん？」

「久しぶりだね！」

「だな！いつ以来かな・・・」

「私は小学生のときに」

「ウチは高1で助けてもらったときに」

「わしは幼いころじゃ」

そうだったな・・・

あんまり合う機会がないからな

「東雲」

「んあ？」

変な声出た・・・

「俺がFクラス代表、坂本雄二だ 好きに呼べ」

「・・・俺は土屋康太」

「別名ムツリーニ」

「・・・ブンブン」

アハハ・・・

ムツリーニって・・・

ってことで！まとめて

「よろしくね！皆！！」

「おう！」

「・・・・コクリ」

「ええ！」

「はい！」

「うむ！」

「うん！」

やっと名前を覚えた頃
明久がこういった

「そっいえば王子って？？」

「あ” - - - - -」

「私が小学生のときに友達と考えてつけたんです！
劇で王子役やったときからで、その前から格好よかったんです！」

恥ずかしいからやめてくれ

顔を手で隠していたから言葉は発することができなかった

そっいえばあのときからだったなあ・・・

皆俺を見るなり格好いいって・・・

まったくわからない・・・

くくく 昼休みくくく

「あのっ！お弁当作ってきたんです！ぜひ！」

「本当！？やったあ！」

「どんなもんだろうな」

「たのしみね」

「うむ！」

瑞希のお弁当？・・・

まさか・・・

いや、それはないだろう

あれから何年たったと思ってるんだ
治ってる、治ってるはず！！

だと、いいなあ

屋上について、瑞希がお弁当をあける
見た目は相変わらずきれいだ・・・
問題は味なんだが

「あつ、ムツツリーニずるいよ！」

あ・・・康太、お前は勇者だな
死に急ぐとは

がっ！！

あーあ、治ってなかったか
康太大丈夫かな？

小学校のときは皆病院送りだったから・・・
お、起き上がった！グツと親指を立てて見せるが
足元はK O寸前のボクサー！！（爆笑）

「喜んでいただけて嬉しいです！皆さんもどうぞ！」

うーん、天然相変わらず！

さあどうするかな・・・

お、飲み物担当の雄二と美波が帰ってきた

あー・・・雄二が卵焼きに手を出して

康太のときとデジャヴ！

” 毒を盛ったな？ ”

” 毒じゃなくて姫路さんの実力だよ ”

だな

しょうがないなあ

ヒョイツ

パクッ！

「「「「「あ！！！」「」「」「」

モグモグ

うーん、よくここまでやるなあ

「瑞希、このお弁当に薬品って入れた？」

「あ、はい」

「よし、次に作るときは入れるな、いいな!？」

「えっ!?!でも・・・」

「小学校のときのこと思い出すか？」

「あっ・・・」

瑞希の顔が青ざめていく・・・

思い出したか

小学校のときに思いっきり説教したことを・・・

「いいな？」

「はい、分かりました」

これぐらい言えば、次からはしっかりと作るだろう
よかった・・・お弁当多めに作っておいて・・・

「「ポツ（赤面）」」

ミエナイヨー

二人の様子なんて俺の視界には入ってないよお!!!!!!

第一問 よろしくな！（後書き）

青「私みたい・・・」

明「へ？」

青「気にするな」

漣「そういわれるときにするが？」

青「いたあ！？漣いたあ！！」

漣「俺は幽霊じゃねえ・・・」

青「ってことで、これからもよろしくお願いします！」

漣「俺の口癖！」

第二問　ちゃっちゃと宣戦布告！！

「コホンッ！明日、Dクラスに試召戦争を仕掛ける」

雄二が話題をそらしてくれた！

このことに関しては後で礼をいわねえとな

「使者を・・・明久、行つて来い」

「なんだって！？」

使者つてたしか大抵酷い目にあうんじゃないかなかったっけか？
流石に俺の友達が酷い目にあうのは
見ちゃいられねえな

「ふむふむ・・・ってことで！俺行ってくる」

「「「「「ええ！？」「」「」「」

「大丈夫！Dクラスに知り合いがいるから！」

「うーん」

「開戦予定時刻は？」

「1：00」

「サンキュ」

はあ、はあ、はあ

いつになってもあの二人は苦手だ・・・

ガラッ！

ビクウ！！

「お兄様！」

「はいい！！??」

「Dクラスが勝ったらお姉さまと・・・」「お兄様を下さい！！！」

「断固拒否する！！！」

「ええ・・・」

「大丈夫です！Fクラス代表の豚にいえば何とかなりますわ！設備を1つ落とされなくなったらお兄様とお姉さまを下さいと・・・グヘヘヘ」

やばい顔してるぞ美春・・・

って美紀もかよ！！！！

「ってことで俺は・・・」

「「お待ちしてます！」」

俺は待つてねえ・・・

まあ、酷い目にはあわなかったが・・・
ついでにDクラス女子が赤面していたが

俺は見ないフリをする

ガラッ！

「たっだいま」

「「「「「「「「「「「「何もされなかったか！？」」「」「」「」「」「」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「なんかされたのか？」

「・・・なんと答えよう

雄二が聞いてくるけど・・・

なんて答えればいいかな・・・？

あ、これなら・・・

「美春と美紀に何かされかけた」

「美春に！？」

「そつえば、お姉さまって美波のことか？」

「え、ええ・・・」

大変だなあ・・・

あ”~~~~

あれは言ったほうがいいのか悪いのか・・・

「雄二、美春と美紀から伝言「設備を1つ落とされなくなかった

「らお兄様とお姉さまを下さい」だって

「よし、いいだろう」

「「やめてくれ／やめてよ！！！！！！」」

酷え！！自分じゃないからって酷え！！

「あれ？王子ってお兄様だったの？」

「みたいだな・・・」

苦笑いしかできない・・・

「変装したらどうだ？二人とも」

「「ええゝ・・・」」

「・・・俺に任せろ」

「「え？」」

「・・・これに・・・これ」

俺と美波に一枚ずつ紙を渡した
俺の紙

髪を下ろし、女子の制服を着てくる
または、いつもと違う髪形にするか
ついでに眼鏡をかけてくる

と書かれていた
康太の願望だろ？
美波の紙には

髪を下ろすまたは違う髪形
胸パ・・・・・・・・・・

そこで赤い液体がついていたため
すぎて読むことはできなかった
ドンだけムツツリだよ！

「はぁ、一日だけなら俺は構わない」

「ウチもいいわよ・・・」

「・・・・・・・・言葉遣いも直せ」

「「え」」

「あいつらのものになりたいか？」

「「了解／よ」」

あいつらものになったら
俺は死んだほうがましだと思っだろう

「・・・・・・・・澪は私に変えて普通にしゃべる・・・・・・・・島田は自分の」
とを私にできるか？」

「俺はできる」

「ウチもいいわよ」

「……………今から変えてみる」

「……………」

「しゃべることないわね」

「だよね」

「私か……」

小学校低学年あたりまでしか使わなかったなあ

「零」

「ん？なに？？」

「！？」

「何びっくりしてるのさ」

「いや、だって普通にしゃべるから」

「今、変装の練習中だよ」

「へー」

あんまりなれないから

ミスしないようにしなきゃな

「あとお前兄貴がいただろう」

「うん」

「・・・兄貴のことはお兄ちゃんかどうか？」

「ヤダ」

「・・・他に兄貴以外で呼べよ？」

「う・・・分かった」

うーん・・・

お兄ちゃんは嫌だから

兄ちゃんかな

それぐらいなら別にいいや

「兄ちゃんにする、「お」をはずしただけだけど」

「いいんじゃないか？」

「兄ちゃん・・・か」

ガラッ！

「呼んだ？」

なぜここに来る兄貴！

第二問　ちゃっちゃんと宣戦布告！！（後書き）

漣「明日は忙しくなりそうだ」

青「本当に、自分に似てきてしまった」

漣「私」か？」

青「うん」

漣「兄ちゃん」か？」

青「うん」

漣「王子」か？」

青「・・・」

漣「それは仮定だよな」

青「・・・いか」

漣「へ？」

青「悪いか！」

漣「うそおー！」

青「マ、ジ！」

漣「あは・・・あはは」

青「先に言っておこう！名前は正反对」

漣「正反对ってなんだよ」

青「さあ？」

漣「はあ、ってことで、これからよろしくお願いします！」

青「明久たち出してなかった！、まいっか」

第三問 Dクラス戦かな？・・・え” 美紀に美春・・・！？

ふわぁ・・・

「おはよ」

「おはよう、漑」

いつものように母さんが食事を並べ

父さんが新聞を読み

そして兄貴がTVを見て・・・え？

「兄貴がもう起きてるううううう！！！！？？」

「「「うるさいぞ漑」」」

「むむ・・・」

「可愛いよ」

「死ね」

毎回毎回うるさいんだよ！！

怒ると「可愛い」ってどんだけシスコンだよ！っつの
おっと、今日は髪型変えるんだった

髪の毛下ろして・・・ついでだからピンつけるか

眼鏡はないからそのままで

制服が女子なので・・・

「あら、漣今日は女子の制服なのね」

「今日はDクラス戦で美紀と美春がいるんだよ！」

「あらあら・・・フッフ」

「あのね・・・」

「兄ちゃん寂しいぞ！」

「俺は寂しくない」

女子の制服は嫌いなんだよ・・・
いいや、愛子みたいにスパッツはいちやえば！

「美紀と美春に気づかれたら俺は・・・死を選ぼう・・・」

「兄ちゃんが守ってやる」

「余計死にたくなるからやめろ」

このシスコンどうにかならないかな？
っていうか！もうこんな時間かよ！

「いつてきまーっす！」

「兄ちゃんを置いてくなよ」

「うっさいー！さっさといっしょよー！」

「そつかそつか、言葉遣いを今日だけ直すんだっ たな」

「私は遅刻したくないの！分かる！？」

「俺だつてしたくないよ」

だつたら走れ！

と罵声を浴びせつつ走っていると
文月学園に着いた

「じゃあね、兄ちゃん」

「ああ！」

カパッ！バサバサバサ・・・

うわぁ・・・いつもより多いかも
後でよんで返事書かなくちゃ・・・

ガラッ！

「おはよー！」

「おはようー！」

「おう」

「・・・おはよう」

「おはようなのじゃ」

「おはようございます」

「おはよ！ 漣」

皆元気！

「ええ！？ 漣！？」

「遅いよ気づくの・・・」

カシャカシャカシャカシャ

シャッターを擦り切れんばかりに康太が俺の写真を撮っている

やめてくれないかな？

俺写真写り悪いと思ったからな

「康太、やめてよ、私写真写り悪いと思うから」

「・・・・・・・・（ジー）」

確認してるし・・・

「・・・・・・・・（グッ！）」

「よくないからね！？」

何か・・・

ガラッ！

「お姉様！お兄様！」

「姫！アキちゃん！」

「（ビクッ！）」

「お姉様〜！」

「アキちゃーん！」

「……………」

4人が呆然としている

明久は教室内を逃げ回っている

美波は髪の毛下ろしてもバレバレと……

「「ところでお兄様／＼姫は？」」

「（ビクッ！）」

きづいた？気づいた？キツイタ？

まずいますまずいますい……

「この方は誰ですか？お姉様」

「可愛いわ！」

「えーっと……（どうしようかしら……漣はすぐ顔を横に振ってるけど……偽名がわかんないわよ……）」

「姫」

「え？」

「姫様」

「あ、え、はい？」

「この方は姫様じゃ！」

「「姫!？」」

「・・・」

何!?!いきなり姫って・・・

秀吉い・・・

ま、助かったから嬉しいが・・・

でも姫ってえ・・・

「姫!私といつしよにry」

「姫!私の作ったこの服をry」

「すみません、拒否します。私そついうの嫌いですから」

「「お兄様/姫・・・いや王子みたい・・・」」

あ、秀吉が 助けてやったのに・・・
って顔してる

秀吉のおかげ・・・！

「秀吉いい！！！！ありがとう！」

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

と、俺は秀吉に抱きついた
すると、秀吉の顔が赤くなった？
あ！強く抱きつきすぎたか？
ってか、おお！ってなんだよ！

「ゴメン秀吉！強すぎた！？」

「わしは男じゃ、それしきなんでもないから大丈夫じゃ」

そついいつつも、明後日の方向を向いてしゃべっていは
説得力が欠けるというものだ
というよりも、また康太が写真とりまくってたが・・・

「ムツツリー二売ってくれ！」

「俺にも！」

「俺が先だ！」

売ってるのか！？
ちよつと気になる・・・

「康太？」

「・・・・・・・・なんでもない」

「鼻血だしながらって・・・康太・・・」

「・・・・・・・・（ブンブン!）」

そんな全面否定だけど

そんななかで取引してるのバレバレ・・・

ってか明久まで入ってるし!?

後ろからそーっとみれば・・・

!?

「明久・・・」

「みつ、漣!？」

「な　　で、こんなのを買ったのかな!？」

こんなの「俺と秀吉が（俺が秀吉に）抱きついている写真

「漣・・・これは僕達男にとっては大切なことなんだ!」

「雄二は?」

「霧島さんとラブラブなのでほっとく」

つとはなしている間にも1:00の10分前
つまり12:50である

Fクラスではミーティングが行われている
俺は気が重い・・・なぜなら・・・
負けたらあいつらが・・・うう・・・

「と、いうことだ！全員は位置に着け！」

[illegible]

第三問 Dクラス戦かな？・・・え” 美紀に美春・・・！？（後書き）

戦争開始です！

多少遅れることもありますが、よろしくお願いします！

第四問 姫？でも王子！（前書き）

更新遅れすぎて申し訳ありません！

「「「試^{サモン}獣召喚！！！」」」

Fクラス	東雲 澪	Dクラス	玉野美紀	清水美春
古典	605	VS	98	101

「「お兄様／ひ・王子！！？」」

「そっだよ！」

そっいつて、もともと持っていたゴムで
髪の毛をポニーテールにした

「いくぜ！^{ボイスン}毒華！」

「「！？」」

「咲け」

「点数が！」

「減っていきます！」

あとちょっと、俺が手を下さなくなっ
腕輪の力で何とかなるさ

「さよなら、そして――反至福の部屋（補習室）へご案内♪」

「「きゃあああああ！！！！！！！！」」

ふう、最大の危機は去った
と思いきや

「絶対に諦めませんからね！／諦めないからね！」

「お兄様！／ひ・姫！」

ゾクツ・・・

美紀なんか、姫で統一してるし！
この試召戦争速く終わらせよう！

タタタタタタタタ

お？戦ってるね

うーん、近衛部隊は全員向こう向いてて
俺の存在に気づいてない
チャンス！

「Fクラス東雲澪が、Dクラス代表に数学勝負を申し込むっ」

「なっ！？」

「「試^{サモン}獣召喚！」」

Fクラス	東雲 澪	Dクラス	平賀・・・
数学	6 6 2	V S	1 1 2

「じゃね〜」

ザッ！

終わっちゃった、早かったなあ・・・

~~~~秀吉 SIDE~~~~

むー、澪は大丈夫だろうか？

わしは他のルートから平賀のところに向かっておる  
めの前にいるんじやが、近衛部隊が邪魔で進まぬ！

うぬ？あそこで手を振っているのは・・・澪か！

あ、試召戦争を申し込んで・・・

倒してしまったのう

早かったのう

可愛い・・・

ハッ！？

わしは今なんと思つたのじゃ！？

・・・・・・・・・・・・・・・・／／／／／

~~~~澪 SIDE~~~~

「乙」

「お疲れさん」

「お疲れ様」

「お疲れ様です」

「お疲れ、零」

「お疲れさまじゃ」

いやあ、たのしかったあ！

うん！？

今寒気が・・・気のせいだといいなあ

ダダダダダダダダダダダ

だと・・・いいなあ

「お兄様あ！お姉様あ！」

「アキちゃああん！姫ええええええ！」

「「「キヤアアア！！！！／うわあああ！！！！／んにゃあああ！！！！」」」
「」

まずい！

俺らが一番の天敵という美春＋美紀が来た！！！！
俺は二人からだがな・・・

「お姉様！やっとあの地獄から開放されましたわ！」

「嫌よ！つて美春ううう！！どこ触ってるのよ！」

「アキちゃん！今日は何がいい！？メイド？巫女！？」

「玉野さん！？その二着もってばくににじりよってこないで！？」

「「お兄様／姫！」」

「ビクウ！」

なんだ！？俺は一体何をしたというんだ！？

「お兄様は、今すぐお姉さまとともに保健室に行きましょう！今ならベッドが空いています！」

「姫！今すぐ巫女姿にきがえて！？」

こうなったら！

「保健室へは、美波といって！美春！！」

「その服は明久のほうが似合うぜ！美紀！！」

「「そうかしら？／かな？」」

「「そうするっ！」」

こうして俺への身の危険は去っていったのだった
と、終わればいいものを

「「まってね！お兄様！／姫！」」

シクシクシクシク

ガラッ！

4人が去っていった

「澪……大変だな」

「……苦労する」

「そうじゃのう」

「王子、大丈夫ですか？」

「なん……とか」

ハア……この苦しみがわからない人はいいいね……
このうちに帰ってしまえば！

ガラッ！

「どうして明久が来るんだよお！！！」

「どうせなら、澪も、道連れ、だよ！」

息切れしながら言っているが
後ろから美紀の足音が……

「行くぞ明久！」

「うん！」

ダダダダダダダダダダ

ここで角を曲がって！

この部屋だ！

「明久！」

「おう！」

バタンツ！

ふう・・・一件落着

これでゆつくりできる・・・

あれ？ここってどこの教室だっけか・・・

ん？生徒指導室？

目をこすって

生徒指導室

「んなバカなああああああああ！！！！！！！！！！」

「お前ら・・・いい度胸じゃないか、自ら生徒指導室に来るとは！」

何とか逃げるためには・・・！

「西村先生！Dクラスの玉野美紀さんがメイド服と巫女服を持って俺と明久を追ってくるんです！！」

何とかしてください！！！！」

「なんだと！？行つて来る！！」

「お願いします!!」

キイイイ

おつと、あぶね・・・

閉まると出られないからな

「零!!」

「ん？」

「ナイス!!」

「おう!!」

第四問 姫？でも王子！（後書き）

テスト週間が終わりました
残すは後結果だけです！

アハハ、楽しみですね↑棒読み

第五問 強化合宿ですと!?

あのまま俺は家に帰った
ぶっはあああ
今日は疲れたあ!!

さーて、ちゃっちゃんと学校行きますか!

「行つてきます!」

「兄ちゃんを置いてくなよ」

「はいはい」

「酷い! 棒読み!!」

うるさいな、毎朝毎朝・・・

タッタッタッタッタッタ

「明久〜!」

「あ、漣! おはよう!」

「おはよ! 明久」

「おはよう、明久」

「あ、友也！おはよう」

と、挨拶を交わしていると

後ろから雄二と秀吉、康太が来た

「お、皆そろって」

「おはよ〜」

「おはよう」

と、俺と明久と兄貴が挨拶すると

雄二たちは？？と首をかしげた

ま、そりゃそうだよな

兄貴に会ったことないもんね〜

「誰だ？」

「俺は、東雲友也だ 遷がいつもお世話になってます」

「逆だろ・・・」

「ん？」

「ひっ！？」

びびった・・・

いきなりこっち見るなんて・・・

しかもめっちゃ笑顔だった・・・

「漣の!?!」

「兄上じゃと!?!」

「・・・似てる・・・!?!」

秀吉? 「兄上じゃと!?!」 って言いながら
顔が赤くなってた様な気もするが・・・

うん、よく言われる

兄貴が髪の毛伸ばしたり

俺が髪の毛切ったりすれば

どっちか区別つかないんだよね

小学校のとき経験済み

親まで間違えやがった・・・

「学校いこうよー、遅刻してもしらねーぞ?」

「あ、漣 待ってよ!」

「だーれが!」

と、全員ダッシュで学校へ行つた
遅刻にはならなかったが
結構ギリギリだった

「あつぶね、おはよー」

「「おはよう／＼ございます 王子!」「」

「お前らの思考回路は吉井並の遅さだな」

「「「「「「「「「「屈辱だ・・・」」」」」」」」」」

「僕が基準なんですか!？」

まあ、そうだろうな

明久ほど遅いやつはいない

ガララッ

「強化合宿かあ、暴動が起きそうだなあ」

「冗談にならないことを言うな」

「やるつもりだろうが」

「「「まあな／まあね／コクリ」」」

「「「お前らな・・・／お主ら・・・／アンタたちね・・・」」」

あいつら・・・絶対やるな

せめて、こっちに被害が無いようにしてくれれば本望だがな
おろ? 明久と瑞希が・・・

「瑞希楽しみだね!」

「そうですね! 明久、除きなんてしないでくださいね!」

「うん! 我慢する」

「明久……」

あれ！？明久と瑞希・
呼び捨て！？
ってことはあ……

「なあ、秀吉」

「なんじゃ？」

「あの二人って付き合ってたのか？」

といい、俺はあの二人を指差す

「そうじゃぞ、どうやら試召戦争の後に告白したらしいのう」

「ほうほう……」

なーるほど

ピンク色のオーラが感じると思ったら
それだったのか

あれ？このクラスって……

「秀吉、もう一個いい？」

「うむ？」

「異端審問会っていうのがあるって聞いたけど……」

「あるが、どうしたのじゃ？」

「アレはいいのか？」

俺はまたあの二人を指差す

そうすると、秀吉は「ああゝ」とうなり

「アレは特別じゃ、というより逆に応援してるかのう？」

「おおつ、すごいねあの二人・・・」

「うむ、そうじゃな（わしらもああいう風になれたらいいがのう）」

「ん？何か言ったか？秀吉」

「なっ、なんでもないのじゃ！」

??

ものすごい真っ赤になってたけど・・・

まいっか

ん？康太がありえないほどのスピードでシャッター切ってる？

ああ、あの二人を取ってるのか

康太・・・一分間に何回シャッター押せるかってはかったら

絶対ギネス取れるぞ（笑）

「流石ムツツリー・・・」

「後で売ってくれ！」

「俺が先だ！」

「何言つてやがる！俺が先だ！」

なーんて声が聞こえてもスルーしようじゃないかってことでこんなんでも今日一日が終わったかえって兄貴に強化合宿のことを聞いたなら2週間前ぐらいに聞いたといっていたやはり、Fクラスは問題視されているのだろう一週間前に言うなんて

ま、あの学園長なら考えそうなことだしなんせ担任はあの鉄人だからな

俺は関係ないからいいが

今回で被害にあうことが無ければいいがな・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3267y/>

俺とFクラスと非日常！？

2011年11月30日18時51分発行